

令和7年度茅ヶ崎市環境審議会 第3回温暖化対策分科会（WEB会議）会議要旨

日時： 令和7年8月8日（金）10時から12時10分まで
場所： 茅ヶ崎市役所 本庁舎4階 会議室5（市役所での参加、傍聴場所）
出席委員： 大河内委員、西野委員
（WEB会議により出席）山田分科会長
欠席委員： 瀬戸委員、山本委員
出席職員： 【環境政策課】柳下課長、森課長補佐、松本課長補佐、眞井主査、今井主任

1 茅ヶ崎市環境基本計画年次報告書（令和7年度版）の評価

及び茅ヶ崎市環境基本計画の政策評価について

政策目標4・5について政策評価を行った。また、分野横断的な視点でポイントとなりうる事項をまとめた。

→主な意見等は次のとおり。（○＝委員、■＝市）

【政策評価に関する事前確認】

- なぜ環境基本計画を、啓発や意識を重視した政策目標のスタイルにしたのか、背景や経過を含め教えてほしい。そして、中間見直しでどこまで修正することができるのか。こちらが行動変容に向けた補助金等の具体策を提案した場合、どこまでいれこむことができるのか。
- 財政状況からすると、補助メニューを打ち出すことは難しい。それは、環境基本計画の策定時も変わらなかったため、啓発事業をメインに目標設定していた。ただし、政策目標と施策目標の指標の連動性については疑問があるため、審議会に諮りながら、定量・定性の両輪で指標を見直したいと考えている。
- 環境基本計画では市民生活の絵姿を描いている。それは必ずしも数字に表されるものだけではない、感覚的なものを含んだ目標を掲げている点を念頭に評価を進めていく。

【政策目標4 気候変動に対応できるまち】

【取組実績に関するコメント】

- 啓発事業や広報活動に関しては、良好と評価できる。ただし、市民生活や事業活動の変化は必ずあるため、その変化に合わせた発信になるよう留意する。
- 昨年開催した市民会議の実践が第一歩だった。財政補助が厳しいのであれば啓発活動が必要と考える。
- 設備や施設に関するものは、事務事業レベルではC-EMSの経過も含めて必要な対策が講じられている。しかし、市民・事業者に対する取組は、啓発にとどまっているため、積極的な評価はない。目標設定をもう少し厳密化、具体化する見直しが必要だ。
- 太陽光パネルや省エネに関して補助メニューがないため、啓発や動機付けは行われているものの、それらが効果としてどのように結びついたのか、施策上で評価することは難しい。
- 財源がないからできないではなく、電力の売買等、財源確保を視野に入れることも必要だ。
- 目標設定と指標の建付けについては、議論の余地がある。
- クーリングシェルトの数値目標はあるか。
- 数値目標はないが、地域に満遍なく開放する等の工夫を行いながら進めていきたい。

【総合評価に関するコメント】

- 啓発でできることを引き続きやっていくこと。啓発でできないことがあるのであれば、それをどのように目標化し、評価軸を設定するのかを検討すべきである。
- 情報提供やPRは、若年層や転入者等の「新しい市民」にも十分に行う必要がある。例えば、転入者に渡す市民便利帳や、市役所入口付近に置いてあるラック等を利用し、茅ヶ崎市の環境に関する活動のPRを行うべきである。

- 環境施策は、転入促進の意味でも地域の魅力に成り得ると考えるため、PRを継続的に行うべきである。
- 気候変動対策は行動が変わらないと成果に繋がらない特徴があるため、行動変容をどのように目標設定し、評価するかを考えるべきである。
- 削減目標の情報修正が必須になるため、どう目標修正していくかが重要になる。
- 2年前に行ったポテンシャル調査は、中間見直しに反映していくのか。
- 反映させる。脱炭素シナリオでは、家庭部門・産業部門等それぞれの部門でどれくらい省エネや再エネが図られれば46%の目標達成できるかが書かれているため、進行管理を行う意味でも見直しに反映していきたいと考えている。
- 脱炭素シナリオの中で、啓発で変わるものと設備や機器の導入で変わるものがあるとしたら、重点はどちらに置かれていたか。
- もちろん意識等のソフト面も必要とあったが、目標達成には、やはりハード面として設備の充実がないと難しいという内容だった。
- そうすると、啓発メニューしか揃わない中でも、実績値を求めなければいけないため、具体的な目標設定をしなければいけないことになる。
- 行動変容を「量」で表す必要がある。施策⑩を例にすると、これを評価する指標はアンケート結果にとどまるが、そこから環境省や消費者庁等が出している資料を踏まえて、数値に置き換えていく。アンケート結果の読み方については、回収率50%～60%に配慮することで、誤差は5パーセント内になるため、全体としての数字の読み替えも行うことができる。概算値として数字を積み上げていくことで、「見える化」していく。
- 政策指標や実績値が数字だけになっていて分かりにくいいため、レーダーチャートのような視覚的に把握できるデータの見せ方等、工夫すべきである。
- エネルギー消費量を減らすために、どれをどれくらいやればいいのか等、ポテンシャルと見比べながら、施策ごとに具体化する見直しが必要だ。

【政策目標5 環境に配慮した行動を实践するまち】

【取組実績に関するコメント】

- 情報発信を継続的にきちんと行われている点は評価できる。
- 学習機会の提供について、アウトリーチ型、体験型のメニューを用意している点は評価できる。
- 発信しているものの、市民や事業者の行動変容は十分でない結果が見られているため、前進させる必要がある。
- C-EMSに基づく施策の遂行について評価できる。
- 情報ツールやAIの活用が必要だ。

【総合評価に関するコメント】

- 広報は地道に継続しているものの、情報の質の部分とターゲット設定に、工夫の余地がある。
- 行動変容に向けて、学習機会の成果や結果まで踏み込んだ目標設定と、評価の見直しが必要である。
- 活動の参加者の意見をしっかりと集めて、積極的に活用していくべきである。
- 行動変容につなげるためには、対話に基づく目標設定、評価、改善といったサイクルをつくり、市と市民の対話を行うべきである。

【分野横断的意見シート】

【分野横断的な視点に関するコメント】

- 緑化は、二酸化炭素の吸収には貢献が小さいかもしれないが、シンボリックな側面に重きを置いた場合、市民の意識や動機付けの変化には大きな影響があると考えられる。
- 温暖化の目標設定について、大胆な数値目標の転換ができないのであれば、ライフスタイルの見直しや変化は重要な役割を担う。温暖化分科会と生活環境分科会が連携して3Rや分別

の発信を行う必要がある。

- ごみの分別については、政策目標 4 にも深く関わることが分かるような表記、見せ方の修正が必要だ。
 - 3つの分科会で共通している SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」に関連させて、何か審議会の中で目標の書き換えにつながるような提案が出たときは、事務局に提案していくべきである。
 - 3Rの徹底やごみの削減成果を、数字や指標を使って示すことで、他の分科会にも活用できる評価まで高めることができる。温暖化分科会でも評価できる連動性のある指標があれば理想的である。
 - 温暖化分科会からすると、エネルギー消費量や二酸化炭素排出量の資料をいれて、廃棄物の削減や焼却等の処理等、管理マネジメント全般に関する別の指標を作成することができる。この新しい指標を見ると、なぜ分別が必要なのか、なぜリサイクルが必要か、新たな解釈や理解につながり、茅ヶ崎らしいライフスタイルの転換に寄与する。こういった連携を図りながら、市民に向けて発信をしていくことはできないか、生活環境分科会へお伝えすることは可能か。
- 本日午後に生活環境分科会があるため、事務局からお伝えする。
- いずれのコメントも、意図は同じで、各分科会と密に情報交換を行うことで、それぞれの指標が結果的にそれぞれの施策の推進に繋がるといったことを、共通認識として持って進めたいという考えである。

2 その他

- ・本日の政策評価については、取りまとめたものを欠席者 2 名にも確認いただく。
- ・事務局より第 2 回環境審議会の案内を行った。
日 時 令和 7 年 9 月 25 日（木）9 時 30 分から
場 所 茅ヶ崎市役所本庁舎 4 階 会議室 4・5
- ・第 2 回環境審議会で、15 分～20 分程度の意見交換の場を設けるよう調整する。

■配付資料

- 資料 1 事前評価シート（温暖化対策分科会）
- 資料 2 政策評価意見シート（温暖化対策分科会）
- 別紙 1 事前評価シート（温暖化対策分科会）補足資料
- 別紙 2 政策評価意見シート（温暖化対策分科会）補足資料